

(以下、p. 168より)

ウ・ウワバミソウ・ダイモンジソウなが着ど生しており山の傾面にはシラキ・トチノキ・ヨグソミネバリ・アカシデ・クロモジ・モミ等の下にハイヌガヤ・キッコウハグマ・ミヤマカタバミ・ホソバトウゲシバ・オオパイノモトソウ・ニシノヤマクワガタ・イワウチワ・ヒロハチョウチンゴケなどが生育している。また倒木や樹上からはヨウラクラン・ムギラン・カヤランが採集された。しかし特筆すべきは内海氏によりエビゴケ・スギラン・モミランが発見されたことであり、スギラン・モミランは県下でははじめての採集であるとのことであり、本採集会の終りを飾るにふさわしいものであった。またナツエビネの一株も内海氏により採集された。

10時半頃滝を出発し同じ道を下り、オオフジシダをとった場所の少し奥でフジシダをとる。原の引原川のほとりで昼食をとり、12時半貸切バスに乗車帰路につく。途中、播磨一の宮の伊和神社に参拝その社叢をみる。2時頃姫路駅到着。無事採集会も終り各自は獲物で重くなったリュックを背に家路へと急ぐ。

筆をおくにあたり、ご指導をいただいた田川・岩槻両先生、多人数の入山を許可下さった営林署、準備に奔走された藤本義昭氏、地元での連絡や荷物の運搬にあたって下さった中原哲男氏、宿舎や食事の世話をして下さい

た民家の方々に対し深く感謝致します。なお、この記をかくにあたり岩谷氏より多大の助言をいただいたことを付記しておきます。

ミカズキグサの自生地について

本年加印支部主催の標本鑑定会に運びこまれた小学生の標本中に1本のミカズキグサを室井緯氏が発見、採集地を聞き9月4日にその場所に行って沢山あることを確認しました。場所は加古川市上荘町小野で、神姫バス上荘線に乗り小野で下車、田の中の道を北に行くと同麓に数軒の民家があり、路は行きどまりとなります。それより畦を左に山麓にそって行き右に曲って小溝にそって行くと25,000分の1の地図上の「長池」の下の小さい池のほとりにでます。その池の北側の傾面の広い湿地が自生地です。そこにはモウセンゴケ・コモウセンゴケ・インモチソウ・ミミカキグサ・ホザキノミミカキグサ・サギソウも見事に生えており、沼地にはミズギボウシもあり大変面白い場所です。

なお、ミカズキグサは氷河期の残存植物であり、保育社の原色日本植物図鑑によれば「日あたりのよい高原の水湿地に生える多年草：分布は九州・本州（主として中部地方以北の高山）・北海道」となっています。

(40.9.14 杉田記)